

きらり

私たちは「きらり」と輝くんや

平成20年6月19日(木) 山根

「おはよう!」「おはよう!

「おはようございます。」
「おはようございます」と大きな声が、かえってきた。「嬉しい」。
中には、小さい声で、「おはようございます」
その瞬間、今日一日「何か、ええことが一杯あるそうや」と、思える。
また、みんなの方から、元気な声で「おはようございます」と言われると、それに応えて、大きな声で「おはようございます」といってしまう。こんなときは、もう浮き浮き気分になります。

「挨拶って、気持ちいいですね。」



挨拶運動

修学旅行で行った沖縄
6月23日は慰霊の日
沖縄戦(おきなわせん)が終結した日

先日、修学旅行で「沖縄戦」について学習してきました。その戦いが終結した日が6月23日です。

沖縄県生活福祉部援護課の1976年3月発表によると、
日本側の死者・行方不明者は18万8136人で、沖縄県出身者が12万2228人、(うち9万4000人が民間人である。負傷者数は不明。)



「ガマ」を体験する坂中生

アメリカ軍側の死者・行方不明者は1万2520人(うち負傷者7万2千)。
ただし、日本側の死者数は戸籍が焼失したり一家全滅が少なくないなどの事情により全面的な調査は行われていない。実数はこれを大きく上回るという指摘もある。
最後の激戦地となった南部地域の村は、いくつもの集落で住民が全滅。

沖縄戦は、太平洋戦争末期の1945年(昭和20年)沖縄本島に上陸した米軍と日本軍との間で行われた地上戦。これは民間人を巻き込んだ日本国内での最大規模の地上戦であり、また日米最後の大規模戦闘となりました。沖縄戦は1945年3月26日から始まり、組織的な戦闘は6月23日で終了したのです。

戦争には今の中学生や高校生の男子が通信兵や特攻切り込み兵として、女子は補助看護婦として強制的に参加させられました。攻撃を受けた日本軍や住民は上の写真のような「ガマ(自然壕)」に避難場所として逃げるが、なすすべはありません。6月23日牛島司令官が自決を図り沖縄戦は終結しました。

元ひめゆり学徒隊の証言の中に『「まだ若いだから無駄死にすることはない」と逃がしてくれた』『壕の中で、もうみんなで自害しようとして女学生の1人が手榴弾を手にしたら、今まで仲良かった兵隊さんが、刀を片手にすごい勢いで怒鳴った。「お前ら、今すぐここから出て行け! さっさとしないと叩き切るぞ!!」女学生達は泣く泣くアメリカ兵の待つ、壕の外へ出ました。すると壕から少し離れた時に、壕の中なら爆音が…。兵隊さん達は女学生達を死なせまいとして、あんなひどいことを言ったんだ。…。壕の中から黒い煙がいっぱい出てくる。』ということもあった。(なお、ひめゆり学徒隊には軍命として解散命令が出ていたのです。)